

積雪の量、カマキリがズバリ

今年の正月は寒いか、暖かいか。積雪は……。

予報に悩む人間をよそに、カマキリが積雪の量をズバリ当てる、という言い伝えがある。秋、カマキリは木の葉に産卵する。卵が低いと雪に埋もれ、高いと鳥に食われる。積雪ぎりぎりの高さに産みつける、というのだ。



杉の木に産み付けられたカマキリの卵のう。間もなく周囲は雪に埋もれるはずだが……＝新潟県長岡市郊外で

立証に挑んだ人がいる。

豪雪の地、新潟・長岡市。11月としては強い寒波が近づいた同月末、地元で電気会社を営む酒井與喜夫(よきお)さん(72)は、長岡市郊外の山林にいた。

「まだまだ。今年の雪はやや少なめの予想です」

指先でカマキリの卵のうを確かめる。クリスマスツリーの飾りのような入れ物に、100個以上の卵があるという。だが見回すと、卵のうの高さは1メートルから2メートルを越すものであり、単純には判断できない。

三島町(現長岡市)生まれの酒井さんは、子どものころ父からこの言い伝えを聞いた。電器屋の商売を始めてすぐの昭和38(1963)年、三八豪雪に遭う。2階の窓から出入りするほどの積雪のなか、アンテナ修理に走り回った。

以来、毎年、卵のうの高さから積雪を予想した。的中率の高さは評判となり、客から「事前に教えてくれ」と頼まれるにいたり、調査は全県で約280カ所、3000個をサンプリングする規模へと広がった。

酒井さんによると、吹きだまりになる地形では卵のうの位置が高く、吹きさらしだと雪がとばされるため低い。高さは毎年、雪にあわせたように変わる。

「少しでも子孫を残すため、選ぶ産卵場所は必死のたくらみの結果です」

しかし親カマキリは雪が降るころには死んでいる。本当に雪の高さまでわかった上のことか？ 酒井さんは、豪雪地帯のカマキリを雪の少ない土地に移して産卵させる実験をした。

結果はなんと、それぞれ移動先の積雪に近い位置に産卵したという。

さらに長岡高専の湯沢昭さん(現前橋工科大学教授)の協力を得て、樹高や傾斜角で地点補正する計算式を考案し、実際の積雪との相関関係を導き、酒井さんは97年、62歳で工学博士の学位を取得した。

この説にはその後、異論も出て、研究者間で論争は尽きない。カマキリは秋、枝から地中の水分を感じ、冬の積雪を予測しているのでは、という説もある。が、仮説の域を出ない。

冬本番。2年前、気象庁が暖冬と発表し、大雪が降った記憶は新しい。虫の力を実際の予報に役立てられないのか。気象庁は「全く考えていません」という。

カマキリは英語で「mantis」。語源はギリシャ語の「予言者」である。

- + 歩く・旅する
- + 暮らし
- + 観る・聴く
- + 本を読む
- + 医療・健康のとびら
- + 大人を楽しむ(ネクストエージ)
- + 学生お役立ち
- + アーカイブ



asahi.com

こだわり創造サイト



5/15 XTDリ